

えだわんだより

2月号

令和8年1月30日発行

共に伸び 共に輝け 感謝・感動 しなやかえだわん

㊦ 笑顔で あいさつ

㊦ だれもが 安心

㊦ 一人一人 みんなちがって みんないい

㊦ がんばろう 最後まで

㊦ 信じ合おう 友達



子どもの目が輝くとき②

校長 北村 高則



ぜんかい つづ (前回の続き) どのようにしたら子どもに「もう少し」の状態をつくれるか。

子どもが「もう少しで頂上だ、がんばろう。」と自ら奮起するには、二つの条件があります。

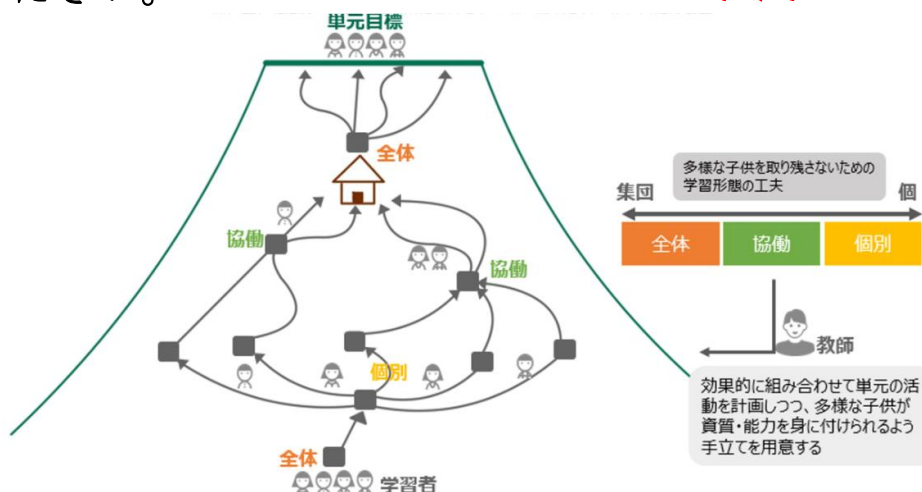
第一に、その山が「自分の登りたい山」であることです。大人が無理やり登らせる山では、強制が解けた瞬間に足が止まってしまいます。世の中には多様な「山(興味・関心)」があることを教え、一緒に楽しみながら、子ども自身が「登りたい」と思える山を見つける手助けをしてあげてください。

第二に、その歩みを認め、見守ることです。幼い子が歩き出す時、大人の笑顔を見て安心して前へ進んだように、成長しても子どもは常に大人の眼差しを求めています。新しい挑戦に対し「いいぞ、その調子。」と背中を押し、成し遂げた時には、初めて歩けた時のような喜びで共に分かち合ってください。

7/1/2/3 (2/3/2)

「自分の意志で選び認められる安心感の中で進む。」この土台があってこそ、子どもは困難な場面でも

と自らの力で一歩を踏み出せるのです。



(出典：文部科学省「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の一体的な充実に向けた指導事項の改善等に関する実践研究)
※文部科学省の公式サイトで公開されている「みるみる(リーフレット)」等の資料に基づいています。